

新潟県中越地震の経験から



宇田優子

新潟県村上地域振興局健康福祉部
地域保健課

中越地震の概況と
長岡保健所

中越地震は平成16年10月23日(土) 17時56分にマグニチュード6.8、最大震度7で発生した。特徴は、①余震の頻発(震度5を超える余震18回を含む有感地震877回)、②地方型・地盤災害(中山間地の斜面崩落や道路寸断により集落の孤立、宅地被害)、③高速交通網の寸断(上越新幹線、関越自動車道の被害甚大)、④地震による直接死亡ではない予防可能な間接死亡の多発(車中泊によるエコノミークラス症候群の発生)である。

被害状況は、人的被害では死者67人(関連死割合推定6割以上)、負傷者4795人、最大避難者数は震災4日目約10万3000人、住家被害は全壊から半壊約1万7000棟であった。災

害救助法適用市町村数は54市町村、4カ所の県保健所管轄地域に被害が発生した。

長岡保健所管内は中越地震発生当時、9市町村(17年度に合併後1市1村、本稿では旧市町村名で記載) 人口約27万人、老年人口22.6%を所管していた。新潟県のほぼ中央に位置し、新幹線や高速道が整備され交通条件が良く、都市部と中山間地・農村部を併せ持つ地域である。保健師数は保健所9人、市町村53人であった。

被害は9市町村すべてに発生したが、県外派遣保健師の応援を必要とした5市町村へ主に支援を行った。

今回は、保健所保健師活動と山古志村での保健活動を例示しながら報告する。

地震発生後の
保健所保健師の活動

1 震災1～2日目

震災は土曜日の夕方であったため、長岡市在住の保健師4人が保健所に出勤し他職員と一緒に所内の災害時対応手順に従い、保健医療福祉施設の被害状況の確認や特定疾患患者の安否確認を行った。しかし電話はなかなか通じず、所内も停電したため状況をつかむことは難しかった。

翌朝から、状況確認を再開したが使える電話が停電のため本と限られ、市町村の被災状況を把握するのに時間を要した。

1町から要請があり、2日目朝から保健所保健師を24時間体制で配置した。

2 震災3～7日目

被災状況が明らかになり、休日明けで公的機関の対応が活発になった。管内市町村、保健所の保健師のみによる被災者健康支援は困難と判断し、3日目当りからの県保健師の応援と県外保健師派遣を県庁に依頼した。

山古志村が全村避難となり役場機能を県長岡地域振興局内に設置、保健活動も保健所が全面的に支援することになった。被害の大きかった5市町村へ直接的な支援と活動調整、県内外からの派遣保健師の業務内容・日程調整、連絡、オリエンテーションの日々が始まった。

在宅要介護者は介護支援専門員が中心になって緊急入所へ結び付けたが、虚弱高齢者が多く集まる避難所では24

時間の介助者配置を必要とする場合もあり保健師以外の職種の人員確保にも追われた。後日、阪神・淡路大震災後に災害救助法に「福祉避難所」が追加されていたことを知ったが、市町村災害対策本部・県現地災害対策本部とも制度について把握していなかった。

3 発災8～14日目

具体的な活動内容として山古志村を紹介する（詳細は表1を参照）。被災者の健康課題は、家屋倒壊などによるケガは少なく、避難生活に伴う慢性疾患の悪化や*生活環境ストレス、断水などによる環境衛生の悪化、感染症リスクや高齢者のADLの低下などが、時間とともに表出、変化していった。

支援者は、保健師以外に医療チーム、こころのケアチーム、看護師、栄養士、

理学療法士、歯科医師・衛生士、介護福祉士が県内外から集まった。これらの支援者が効果的に活動するには避難所配置の保健師により、支援を必要とする被災者の把握、相談希望の確認と相談場所を設定、相談後のフォローが重要であった。

活動形態としては、避難所においては被災者の健康相談、感染予防や健康体操などの健康教育、保健医療資源のコーディネートなどであり、環境整備を避難所管理者（山古志村の場合は区長であった）やボランティアと相談しながら実施した。

避難所以外の住民に対しては、個々の対応以外に栃尾市で発災後11日頃から被害地域を対象に健康調査を開始、長岡市も発災後2週目から開始した。調査員は他県派遣保健師が中心になり、保健所も調査内容の検討などを支援した。

*災害後の不自由な生活状況に起因するもので、特異な症状を引き起こすというよりは被災者の全般的健康を低下させる。災害の衝撃に直接起因する外傷性ストレスに生活環境ストレスが重なるPTSDが発症しやすいからで、生活環境ストレスへの対処は予防が大きな意味を持つとされる。

4 発災15日目～避難所閉鎖まで

初災2週目を過ぎると、ライフラインはおおむね回復して自宅生活可能者は帰宅し、避難者・避難所数は減少した。避難勧告が継続している地区や全壊世帯などが避難所生活を続け、仮設住宅入居まで避難生活は続いた。

発災19日目に管内5市町村の保健師12人と1回目の情報交換会を実施した。3週間無我夢中で実施した内容を話し、スーパバイザーから助言をもらい元気づけられ、仮設住宅入居までの保健

師活動をイメージした。この会は、平成16年度中に合計4回開催し、災害保健活動の方向性を検討する場になった。

5 長岡保健所の保健師活動の特徴

(1) 市町村担当制と保健師リーダーなどの役割分担を行った

長岡保健所は2課3係に保健師を配置している。2課のスタッフレベルの保健師で市町村担当にし、情報集約と活動支援、調整を行った。保健師活動のリーダーは係長クラスの保健師が行い、課長クラスの保健師は保健活動全体と所内調整、県現地対策本部との連携を担当した。業務分担に基づく業務は緊急性で優先順位を判断しながら実施した。兼務発令で県保健師2人が配置され、健康調査の企画や避難所支援を担当した。

市町村は複数課に分散配置、業務分担制が進んでいるが、災害時に分散したままでは力が発揮しにくいと思われるので、活動体制や役割を事前に検討しておくことをお勧めする。

(2) 保健所内の他職種と連携した

精神保健福祉相談員、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士などと情報を共有し、活動を効果的に行うために毎朝10分程度ミーティングを実施した。現地対策本部からの情報（災害対応全体の情報が入ってくる）、市町村単位の情報、外部支援者の日程などを勤務者全員が把握し、課題の共有、活動がなくなるようにした。

(3) 被災市町村保健師情報交換会を行った

5市町村での活動内容や疑問、不安を話し合い検討する場とした。

6 災害時の保健師活動について（保健所に限らず市町村も含めて）

(1) 現場活動

避難所での活動は、避難所を一つの地区ととらえ、地区活動を住民とともに行うイメージで展開した。

避難所は病院ではなく「避難生活の場」であり、被災者への支援は「健康障害の悪化や発生を防ぎ、通常生活への復帰」であることを共有し、地区担当の保健師へ引き継ぐことを意識して活動した。避難所への保健師配置は24時間配置から巡回型まで避難者数や状況で判断した。

避難所以外での活動では、個別支援のほか、被災集落へこころのケアチームの健康相談・座談会形式での巡回や健康調査に取り組んだ。健康調査は実

表1 長岡保健所及び山古志村 災害各期の健康課題と保健予防活動

	期間	被災当日～1週間 平成16年10月23日～10月29日		
	避難者数	2,167人		
	避難所数	8カ所		
	状況	避難指示 ライフライン切断、役場機能の停止 死亡2名 自衛隊による炊出し、仮設入浴の開始		
	健康課題	①打撲・外傷・骨折 ②風邪症状の出現（咳、発熱）、予防品（うがい薬・マスク等）の不足 ③震災による交通状況の悪化や、家屋倒壊等による受診・服薬の中断 ④衛生環境の悪化（埃、汚れ、換気不足、トイレの不衛生等） ⑤不眠、ストレスの訴え多い ⑥配給の食事を取りおき、賞味期限を過ぎたものを食べている等食品衛生管理が良くない。 ⑦義歯の紛失等による食事摂取困難 ⑧義歯洗浄剤や歯ブラシ等の不足により口腔ケアが不十分		
山古志村	医療	医療チーム	救護所設置（済美会館） 巡回診療（日赤・生協） 8カ所/日	
		心のケア	県こころのケアチーム 10/26開始 14件(14人) 日赤こころのケアチーム 10/28開始 207件	
		歯科(保健含む)	巡回診療6カ所、歯科用物品の配布	
		看護	看護協会 県看護師	
	支援体制	ボランティア	17人	
		社協	村	
			村外	
		保健師	自治体数	10/27 横浜市到着 4
			延保健師	11人
		県内	県	a.地域機関 25人 b.その他 11人
			市町村	10/27 新潟市到着 6人
	栄養士	栄養相談開始		
	理学療法士			
歯科衛生士				
実施した支援	医療	①精神疾患・高血圧・糖尿病等慢性疾患を持った住民への医療確保と継続支援 ②医療費支払い猶予の連絡 ③救護活動に関する連絡・調整		
	避難所	①安否確認 ②健康状況の把握及び支援 ③要支援者の把握と支援 ④健康相談 ⑤栄養補助食品配布		
	仮設住宅			
長岡保健所	保健所保健師の活動	(1日目) ・保健・医療・福祉施設の被害状況確認 ・特定疾患患者安否確認(2～4日目) ・保健医療福祉施設の被害状況調査 ・特定疾患患者、結核患者、養育医療受給者安否確認 ・保健事業中止の判断と対象者への連絡 ・市町村避難所へ直接的な支援 ・市町村への保健師派遣調整開始、派遣開始 ・県保健師の応援入る (5～7日目) ・県外保健師の応援到着、山古志村と三島町避難所へ配置 ・兵庫県保健師が助言者として来所、保健所と2市を巡回 ・所内で朝のミーティング開始・山古志村避難所健康調査の準備開始		
	1日当たり最大県外派遣保健師の人数/派遣自治体数	8人/3自治体/日		
	受け入れ市町村数	2市町村		

実施時期、調査目的などを慎重に検討して実施したこと、単発でなく復旧から復興期活動への継続性を考慮して実施した。

また、避難所・避難所以外ともに県外派遣保健師を中心に活動した。

(2) 連絡調整、コーディネート活動

現場での活動を円滑にするために、被災者のニーズ集約と保健活動の企画、連絡調整を行った。保健師は地域の保健医療福祉の3分野にわたり活動しているため、災害時には3分野の情報が一挙にかつ多量に保健師に集中した。情報を確認、調整して表出、指示やその後の対応に反映させるなどコーディネートの業務量は膨大であり、被災地の保健師は市町村・保健所とも、現地へ出向き自分の目で見、耳で聴き、感じて判断するという、直接活動ができないもどかしさがストレスになった。

(3) 保健師活動の考え方

発災直後は3次予防（早期治療、治療への結びつけなど）レベルの被災者支援が中心であったが、時間経過とともに2次予防（健康被害の早期発見）、1次予防（健康被害の防止）へと展開した。また、Plan→Do→Seeを日々刻々と非常に速いサイクルで繰り返して行ったので通常の保健師活動の延長線上にあったといえる。しかし、地域防災計画や災害救助法を把握しておくなど事前の準備や訓練は必要であると痛感した。

おわりに

刻々と変化する状況の中で即断しなければならぬ場面は数多く直面した。災害時の保健師活動の参考になる資料

が少なく、自分の判断に自信が持てない不安な気持ちが強かったことを思い出す。先の見通せない薄暗闇の中を保健師同士が手をつないで何とか前進していたように思う。スパーバイザーや県外派遣保健師に助けられ励まされ乗り越えることができた。

この経験を「災害時の保健師活動」として共有し、後輩に伝えていくことが必要と考えている。また、今回の報告内容が長岡保健所管内の保健師活動すべてを網羅していないことをご理解いただきたい。

●

最後にご支援をいただいた多くの皆様には深く感謝を申し上げます。

【文献】
宇田優子ほか：「新潟県中越大地震における要援護者用避難所運営の課題」
(第27回全国地域保健師学術研究会 2005)

期間	2週間		
	平成16年10月30日～11月5日		
避難者数	2,164人		
避難所数	8カ所		
状況	避難指示 被災者健康状況調査開始 一時帰村開始 小中学校及び保育所の再開		
健康課題	①風邪症状の悪化 ②豊富な食事を用意していただき、食べすぎの傾向になった ③食べ過ぎと運動不足による下肢浮腫からの褥創の発生、便秘、持病の悪化(高血圧・糖尿病等)や体力低下、ADL低下、肥満 ④不眠、ストレスの訴え多く、安定剤処方される ⑤巡回診療、救護所の両方から処方を受けたり、他者に譲る等服薬管理ができていない ⑥トイレの利用が困難なため、水分摂取を控える高齢者がいる ⑦環境衛生の悪化(埃、乾燥、気温対策) ⑧静養室がなく、安静が保たれにくい ⑨環境の変化に伴い歯磨きができず口腔衛生状態の低下している人が多い ⑩好きなだけ手の届くところに菓子があり、子供の栄養状態、虫歯の悪化の可能性がある		
支援体制	医療	医療チーム	救護所設置(済美会館) 生協撤収、日赤巡回診療 8カ所/日
		心のケア	30件(21人) 575件
		歯科(保健含む)	巡回診療7カ所、歯科用物品の配布
	介護	看護	看護協会
		ボランティア	県看護師
	保健師	社協	村 21人 村外
		自治体数	12
		県外延保健師	175人
		県内	a.16人 b.2人
		市町村	33人
栄養士	栄養指導班 1チーム4人(27件)		
理学療法士			
歯科衛生士			
実施した支援	医療	①精神疾患・高血圧・糖尿病等慢性疾患を持った住民への医療確保と継続支援 ②救護活動に関する連絡・調整	
	避難所	①健康状況の把握及び支援(健康状況調査の開始) ②要支援者の把握と支援 ③健康相談 ④感染症予防対策(うがい、手洗いの徹底) ⑤静養室確保のための調整 ⑥慢性疾患患者の栄養指導及び栄養補助食品配布	
	仮設住宅		
長岡保健所	保健所保健師の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村避難所等へ直接的な支援 ・県外派遣保健師等の配置・業務調整、連絡業務 ・県外派遣保健師を派遣した被災市町村の保健活動への支援 ・山古志村避難所健康調査を実施(11月12日まで1,366人) ・管内5市町村へ県外派遣保健師派遣開始 ・栃尾市健康状況調査(避難所以外の被災地住民)の協力支援(11月2日～5日) ・長岡市健康状況調査(避難所以外の被災地住民)の協力支援(11月6日から11日) 	
	1日当たり最大県外派遣保健師の人数/派遣自治体数	40人/18自治体/日	
	受け入れ市町村数	5市町村	

期間	3週間		4週間		
	平成16年11月6日～11月12日		平成16年11月13日～11月19日		
避難者数	1,467人		1,441人		
避難所数	8カ所		8カ所		
状況	山古志村役場長岡事務所開設 休養テント、子供用テント開設				
健康課題	①風邪症状の悪化 ②食べ過ぎ、運動不足による身体状況の悪化(便秘、肥満、食事制限者の悪化等) ③不眠、ストレスの訴え多い。また、一人の生活スペースが狭く、寝返りをうてない等休息がとりにくい ④日中特にすることもなく、喪失感を持っている。また、それに伴う無気力や今後に対する不安がある。⑤少子化のため子供に慣れていなく、子供の声や遊びに対し不快感を示す人がいる。また、保護者も気を使っている。思うように遊ばず子供のストレスも増えている ⑥口腔衛生への関心の低い人達、要介護者への口腔ケア体制が整わず、口腔衛生状態が悪化している		①風邪症状の悪化 ②食べ過ぎ、運動不足による身体状況の悪化(不眠、便秘、肥満、食事制限者の悪化等) ③ストレスの増大 ④長期に及び避難生活で、仮設住宅入居後生活していけるのかという不安、ADLや適応能力の低下がある		
支援体制	医療	巡回診療縮小(11/11～)	6カ所/日	巡回診療	4カ所/日
			50件(37人) 347件		26件(25人) 467件
			巡回診療5カ所、物品配布		巡回診療6カ所、物品配布
	介護		7人 40人		7人 56人
			21人		21人
			11人		34人
			17		21
			198人		212人
	保健師		a.13人 b.0人		0人
			14人		8人 新潟市16日で終了
		栄養指導班 6チーム16人(95件)		栄養指導班 4チーム11人(88件)	
		福祉的避難所週1回リハビリ職支援(7名)			
		巡回相談・口腔ケア 1回		巡回相談・口腔ケア 2回	
実施した支援	医療	①避難所でインフルエンザの予防接種実施(実施率:54.2%) ②救護活動に関する連絡・調整		①救護活動に関する連絡・調整	
	避難所	①要支援者の把握と支援 ②健康相談 ③感染症予防対策(うがい、手洗いの徹底) ④静養室確保のための調整 ⑤避難所保健師ミーティングの実施(11/8～) ⑥慢性疾患患者の栄養指導及び栄養補助食品配布 ⑦適正な食事量の啓発		①要支援者の把握と支援 ②健康相談 ③感染症予防対策(うがい、手洗いの徹底) ④避難所保健師ミーティングの実施 ⑤慢性疾患患者の栄養指導及び栄養補助食品配布	
	仮設住宅	①仮設住宅入居者の把握			
長岡保健所	保健所保健師の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村避難所等へ直接的な支援 ・県外派遣保健師等の配置・業務調整、連絡業務 ・山古志村避難所健康調査を実施(11月12日まで1,366人) ・山古志村避難所保健師ミーティングを開始 ・長岡市健康状況調査の協力支援(11月6日から12日) ・兵庫県立大学教授より災害保健活動への助言、指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・市町村避難所等へ直接的な支援 ・県外派遣保健師等の配置・業務調整、連絡業務 ・第1回被災5市町村保健師と情報交換会 ・特定疾患患者等へ家庭訪問 ・通常業務再開に向けた準備 	
	1日当たり最大県外派遣保健師の人数/派遣自治体数	54人/24自治体/日		54人/24自治体/日	
	受け入れ市町村数	4市町村		4市町村	

期間	5週間		6週間		
	平成16年11月20日～11月26日		平成16年11月27日～12月3日		
避難者数	1,437人		1,408人		
避難所数	8カ所		8カ所		
状況	避難指示				
健康課題	①管内のサーベイランス定点感染性胃腸炎の流行始まる。避難所でも一部で嘔吐・下痢症状を訴える人が出始めた。その他、流行性耳下腺炎、水痘等に感染した人が出始めた ②風邪症状の悪化 ③ストレスの増大 ④適応能力・意欲の低下		①長期の避難生活及び仮設入居前による疲労に伴う感染症の流行（風邪・インフルエンザ等）②避難者の中でノロウイルスによる感染性胃腸炎であると検査診断を受けた人が出た。また、嘔吐・下痢・発熱を訴える人が増加している ③ストレスの増大 ④日常生活能力の低下		
医療	医療チーム	救護活動 日赤巡回医療 4カ所/日			
	心のケア	県こころのケアチーム 25件(18人) 日赤こころのケアチーム 406件		32件(20人) 420件	
	歯科(保健含む)	巡回診療1カ所、物品配布		物品配布	
	看護	看護協会 9人		11人	
	ボランティア	県看護師 36人		34人	
	社協	村	21人		50人
		村外	37人		32人
	県外	自治体数	20		19
		延保健師	227人		229人
	県内	県	1人		0人
市町村		0人		0人	
栄養士	栄養指導班 2チーム4人(31件)		栄養指導班 2チーム4人(21件) 料理教室 3回(27人)		
理学療法士	福祉的避難所 週1回リハビリ職支援(7名) 県士会ボラ 避難所支援 11/25:12名		11/30:11名 12/2:14名		
歯科衛生士	巡回相談・口腔ケア2回		避難所口腔ケア 4人		
実施した支援	医療	①避難所でインフルエンザ予防接種の実施(実施率:16.8%)			
	避難所	①感染症予防(うがい、手洗いの励行、吐物処理の徹底、環境整備) ②健康相談 ③要支援者の把握と支援 ④避難所保健師ミーティングの実施 ⑤定期栄養相談の実施		①感染症予防(うがい、手洗いの励行、吐物処理の徹底、環境整備) ②健康相談 ③要支援者の把握と支援 ④避難所保健師ミーティングの実施 ⑤定期栄養相談の実施	
	仮設住宅	①仮設住宅入居後の健康課題について検討 ②仮設住宅入居者健康状況把握調査票作成・準備			
長岡保健所	保健所保健師の活動	・市町村避難所等へ支援 ・県外派遣保健師等の配置・業務調整、連絡業務 ・山古志村避難所保健師ミーティング開催 ・通常の対人保健事業の一部再開(療育相談)		・市町村避難所等へ支援 ・県外派遣保健師等の配置・業務調整、連絡業務 ・山古志村避難所保健師ミーティング開催 ・第2回災害保健活動情報交換会開催 ・支援者のためのこころのケア研修会の開催	
	1日当たり最大県外派遣保健師の人数/派遣自治体数	48人/23自治体/日		50人/23自治体/日	
	受け入れ市町村数	3市町村		3市町村	

期間	7週間		8週間	
	平成16年12月4日～12月10日		平成16年12月11日～12月17日	
避難者数	1,314人		485人	
避難所数	8カ所		6カ所	
状況	仮設住宅入居開始			
健康課題	①長期に及び避難生活で適応力が低下しており、仮設入居後、電化製品等の使い方がわからず、我慢をして生活状態が悪化する可能性がある ②避難所での感染症の流行や、治癒しないまま仮設住宅に入居し、健康状態の悪化を招いている		①長期に及び避難生活で適応力が低下しており、仮設入居後、電化製品等の使い方がわからず、我慢をして生活状態が悪化する可能性がある ②避難所での感染症の流行や、治癒しないまま仮設住宅に入居し、健康状態の悪化を招いている	
医療	仮設診療所開設(12/10～)			
	巡回診療 3～4カ所/隔日			
	14件(12人) 180件		2件(2人) 12/14終了 2件	
	物品配布		物品配布	
	7人		9人	
	42人		38人	
	27人		28人	
	23人		27人	
	24人		21人	
	243人		243人	
0人		0人		
0人		0人		
理学療法士	12/6:6名 12/9:9名			
歯科衛生士	避難所口腔ケア 4人		避難所口腔ケア 4人	
実施した支援	①救護活動における連絡・調整 ②こころのケアの引継ぎ			
	①感染症予防(うがい、手洗いの励行、吐物処理の徹底、環境整備) ②健康相談 ③要支援者の把握と支援 ④避難所保健師ミーティングの実施(12/16まで) ⑤定期栄養相談の実施		①感染症予防(うがい、手洗いの励行、吐物処理の徹底、環境整備) ②健康相談 ③要支援者の把握と支援 ④避難所保健師ミーティングの実施(12/16まで) ⑤定期栄養相談の実施	
	①仮設集会所での救護活動(健康相談・生活相談の実施) ②仮設住宅入居者健康状況把握訪問(なじらね訪問)の周知 ③仮設住宅保健活動へのオリエンテーションの実施		①仮設集会所での救護活動(健康相談・生活相談の実施) ②仮設住宅入居者健康状況把握訪問(なじらね訪問)の周知・実施 ③なじらね訪問カンファレンスの実施	
長岡保健所	・市町村避難所等へ支援 ・県外派遣保健師等の配置・業務調整、連絡業務 ・山古志村避難所保健師ミーティング開催 ・第3回災害保健活動情報交換会開催(仮設住宅入居後の保健活動計画の検討) ・市町村との共催保健事業の再開			
	50人/24自治体/日		52人/25自治体/日	
	4市町村		3市町村	

山古志村	期間	9週間 平成16年12月18日～12月24日		
	避難者数	0人		
	避難所数	0カ所		
	状況	仮設住宅入居完了 避難所完全閉鎖(12/22)		
	健康課題	①仮設入居間もなく、また慣れない仮設住宅での生活で近所づきあいに戸惑いやストレスがある ②長期に及ぶ避難生活で適応力が低下しており、仮設入居後、電化製品等の使い方がわからず、我慢をして生活状態が悪化する可能性がある		
	支援体制	医療	医療チーム	12/20終了
			心のケア	12/20終了
			歯科(保健含む)	
		介護	看護	2人
			ボランティア	4人
社協			11人	
村外			11人	
保健師		県外	自治体数 16	
		延保健師	216人	
		県内	市町村 0人	
栄養士				
理学療法士	集会所に福祉用具デモ提供			
歯科衛生士				
実施した支援	医療			
	避難所	①感染症予防(うがい、手洗いの励行、吐物処理の徹底、環境整備) ②健康相談 ③要支援者の把握と支援、引継ぎ ～12/22まで		
	仮設住宅	①仮設集会所での救護活動(健康相談・生活相談の実施) ②仮設住宅入居者健康状況把握訪問(なじらね訪問)の周知・実施 ③なじらね訪問カンファレンスの実施		
長岡保健所	保健所保健師の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・県外派遣保健師等の配置・業務調整、連絡業務 ・山古志村避難所保健師ミーティング開催 ・山古志村仮設住宅全戸訪問調査の支援(12月15～25日まで511世帯1,573人) ・長岡市災害保健活動報告会に出席 ・山古志村災害保健活動報告会共催 		
	1日当たり最大県外派遣保健師の人数/派遣自治体数	38人/20自治体/日		
	受け入れ市町村数	2市町村		